営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

露地胡瓜

1.整枝について

一度に4本以上の枝を摘むような摘芯は、避けて下さい。3枚以上展開の生長点を3～4本残します。光が当たるように誘引・枝の整理を行います。気温の低下に伴い草勢が衰えやすい為、収穫ピーク前の摘芯は控えて下さい。

2.摘葉について

草勢を見ながら、老化葉・病葉だけではなく、採光や通風を妨げている葉を除去して下さい。又、不良果の摘果を行い、草勢の回復を図って下さい。

3.灌水について

毎日もしくは1日おきの灌水を行って下さい。高温時の灌水は避け、なるべく早朝の涼しい時間に10a当たり3～4tを目安に液肥と合わせ灌水して下さい。8月に雨が多く、根の動きが弱っている所も見られますので、発根剤を使用して下さい。又、通路や畦のかたが乾いているようであれば排水を考え、水分過多にならないよう通路へ灌水を行って下さい。

4.黄化えそ病（MYSV）について

ミナミキイロアザミウマの防除、及びほ場内の除草を徹底して下さい。本病と疑われる症状が発生した場合、抜根するか、症状がわからない場合はJAまたは、農業改良普及センターに連絡して下さい。

にら

にらにとって生育しやすい時期となってきました。株養成期間も後半に入り、収穫までの日数も少なくなってきました。収穫前に病害虫等の被害があると収量減少、品質低下に繋がる大きな原因となります。徹底防除を行い、収量増加、品質向上に努めて下さい。また、ビニール被覆前にはハウス内病害虫密度を減らすため農薬散布を必ず実施して下さい。

ミニトマト

定植が終了している方は、今後コナジラミやヨトウムシ、コオロギ等の害虫の侵入が懸念されるため、十分な防除を行って下さい。また、今後の収量に大きな影響を与えますので、今の時期は根（特に直根）を張らせるような灌水管理を行って下さい。

大玉トマト

定植が終了している方は、今後コナジラミやヨトウムシの侵入が懸念されるため、十分な防除を行って下さい。高温多湿時に軟腐病の発生が懸念されるので、定期的な散布を行って下さい。トマトの収量・品質アップには、草勢維持が不可欠になってきます。草勢維持のためには、生育初期（第3花房開花）までに地上部茎葉の過繁茂を抑えて土壌深層への根群伸長を促進することが重要なポイントとなりますので、根張りの促進を図る灌水を実施して下さい。

いちご

【開花期までに病害虫防除の徹底を!!】

活着促進のため、定植後1週間は株元を中心に灌水して下さい。チップバーンやがく枯れが発生しないように、灌水は少量多回数で、土壌中の水分変化が少ない状態にして下さい。天敵導入圃場は、天敵に影響が長く残らない薬剤を選び、10月下旬頃から放飼出来るように防除体系を組んで下さい。またスリップスの発生も増えてくる時期なので対策として、開花後花数が少ない内に薬剤防除を行い、ホリバー（青）を設置して下さい。チビクロキノコバエの対策として、ホリバー（黄）を設置して下さい。

ぶどう

収穫終了後から翌年の生産へ向けた準備となります。そのため、べと病・ヨトウムシの発生に注意し、早期落葉を防いで下さい。また、土壌分析を行い、分析結果に基づいた施肥と適切な灌水を実施して下さい。

きんかん

果実肥大を促進するために、11月いっぱいまでたっぷり灌水（常に土が湿った状態）を行って下さい。また、土壌の乾燥防止。細根の発生促進のために、敷きワラを行って下さい。特に敷きワラは、収穫中のハウス内湿度を抑える効果があります。果実肥大に伴って、重さで枝が垂れ下がるので、枝つりを行って下さい。防除に関しては、病害では黒点病、害虫ではハダニとカメムシに注意して下さい。

・肥培管理

紅乗り向上や翌年の発芽対策のために、着色始め期に行います。（10月下旬～11月上旬）

※夏芽が多く発生している樹勢の強い樹については、発芽を助長する為、施肥は控えて下さい。

・仕上げ摘果

先端果、すそ成り果、奇形果、病害果、傷果や小玉果の除去を行って下さい。